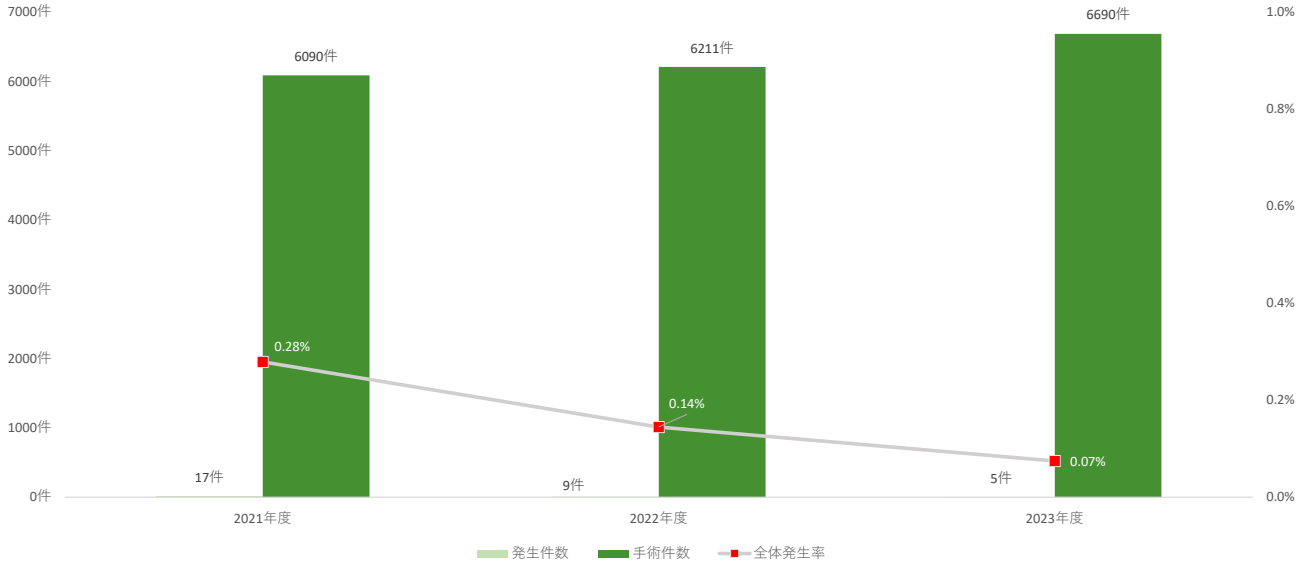
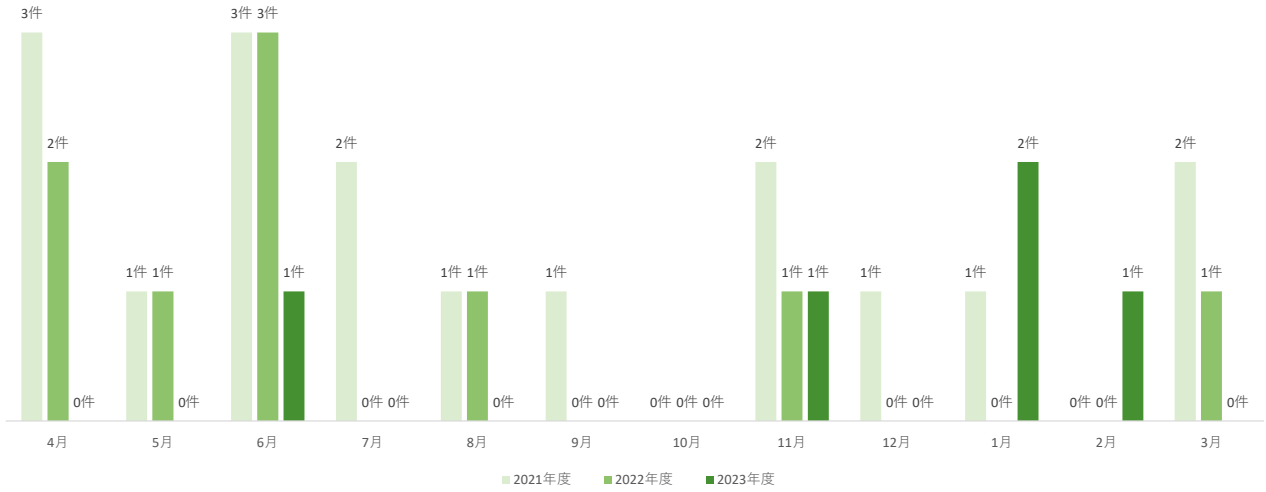
2021年度－2023年度　手術中褥瘡発生率年度推移



2021年度－2023年度　手術中褥瘡発生件数（月別）



【指標の説明】

昨今の手術は多様化しており、その手術操作を容易にするため術式に合わせて様々な体位を取る必要があります。
そして、その体位が手術中に崩れないよう患者さんの体を固定する必要があります。
ただし、患者さんは麻酔中で意識がなく体が圧迫されていても訴えることが出来ません。
手術が終わり、麻酔から覚めると手術の傷と違うところの皮膚が赤くなったり、ただれていた（＝褥瘡）という事例も報告されています。
褥瘡ができるとその部位のケアも必要となり、患者さんの更なる負担となりかねません。

当院では2021年度から2023年度にかけ、手術件数は増加しているものの院内新規褥瘡発生件数のうち手術中の褥瘡発生件数は低下しています。
これは2023年度までの「手術看護認定看護師」を中心とした褥瘡予防教育によるものです。
当院の手術センターには、2023年度まで手術看護認定看護師（手術室褥瘡対策セミナー講師）が勤務し、すべての手術センター看護スタッフへ「術前・術中・術後の観察を怠らず褥瘡を発生させないこと」を徹底指導しました。
今後もこの指導を手術センター看護師が継続して周知し、褥瘡発生率を上げない手術看護を目指します。
患者さんへの手術中の褥瘡発生を出来る限り抑え手術以外の負担を軽減し、安心して手術に臨んでいただける環境を整えています。

【計算方法】

分子：院内新規褥瘡発生件数のうち、手術中の褥瘡発生件数
分母：年度手術件数
分子／分母　×　100